尾崎士郎記念館企画展

「士郎作品と中川一政（なかがわかずまさ）の挿絵（さしえ）・装丁（そうてい）の世界」特集

平成22年７月26日～平成23年１月23日

■ 開催にあたって

尾崎士郎の小説家としての仕事を振り返るにあたって、画家中川一政の存在を忘れることはできません。

士郎の代表作『人生劇場』の執筆を薦めたのは、早稲田大学時代からの親友で、当時都新聞（みやこしんぶん）文化部長であった上泉秀信（かみいずみひでのぶ）ですが、彼の依頼によって昭和８年から都新聞に連載された『人生劇場』（青春篇）の挿絵を担当することになったのが中川一政でした。

新聞連載はされたものの、単行本の刊行予定のなかった『人生劇場』が竹村書房から発刊されることになったのも、中川と上泉の尽力によるもので、中川は本の装丁にも熱意をもって取り組みました。その後、『人生劇場』（青春篇）は、川端康成が大絶賛する書評を読売新聞に掲載したことにより、人気に火がつくことになります。

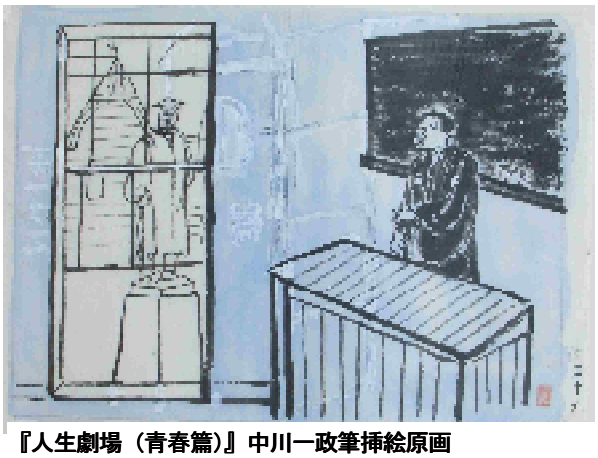
士郎の文と中川の絵はぴったりと調和し、中川の挿絵・装丁によって士郎作品がさらに魅力的なものになったといえます。

今回の企画展では、中川の挿絵原画、装丁作品などとともに、士郎と中川一政との交流を紹介します。

中川一政　真鶴町立中川一政記念美術館提供　岡畑孝二撮影

明治26年東京生まれ。十代から、短歌・詩・小説を文芸誌に投稿する文学少年であったが、21歳で初めて描いた洋画「酒倉」が岸田劉生に認められ独学で画家を志す。草土社や春陽会に所属し、岸田や梅原龍三郎らと行動をともにし、白樺派の武者小路実篤や志賀直哉とも交流をもった。

油彩のほかに、水墨・岩彩（日本画）・書・装丁・篆刻・陶芸でも、自由で生命感に満ちた作品を多数発表するとともに、随筆、紀行文などの執筆活動も行った。晩年になっても、「駒ケ岳」「薔薇」の制作を続け、平成3年に97歳で他界した。



『人生劇場（青春篇）』中川一政筆挿絵原画
左：第39回 大隈重信夫人の銅像建立反対演説を行う瓢吉　右：第65回 「流水亭」のお袖の手をとる夏村大蔵
『人生劇場（青春篇）』は都新聞に昭和８年３月から９月まで165回にわたって連載された。

『人生劇場（愛欲篇）』挿絵執筆時の中川が士郎に宛てた書簡
昭和９年11月21日からの『人生劇場（愛欲篇）』の都新聞連載を前に、１章分の挿絵を編集担当の飛田へ送ったことを伝えた手紙。

■ 士郎の『人生劇場』と中川一政

中川の挿絵は軽快なタッチの線描きで表現されていますが、作画に当たっては、近所の青年にモデルを頼み、芸者が登場すれば待合に、駅の場面は駅に写生に出かけたといいます。

士郎と中川のコンビによる都新聞への連載は、『人生劇場』青春篇・愛欲篇・残侠篇・風雲篇、『石田三成』と６年間に渡って断続的に続きましたが、中川は本業の洋画制作に専念する理由で辞退することになりました。「本文を離れて独行する事ができない」挿絵制作に無常を感じるようになったとも述べています。

士郎と中川の関係は、酒席を共にする間柄ではありませんでしたが、生涯にわたって作家と挿絵画家・装丁家としては互いに深い信頼感で結ばれていました。

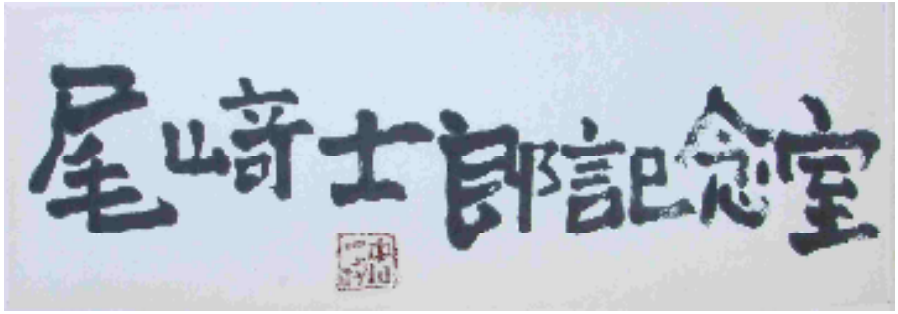
新築地劇団公演『人生劇場』　昭和10年　築地小劇場
『人生劇場』のヒットを受けて制作された演劇。中川一政が舞台装置を担当した。写真は三州横須賀村の辰巳屋の場面。

『石田三成』中川一政筆挿絵原画
昭和13年に都新聞に132回連載された小説の第119回の挿絵。場面は柴田勝頼。

■ 中川一政装丁の士郎作品

戦前は画家が本の装丁を担当することが多く、中川は20代の後半から多くの文学書の装丁を手がけています。

中川が装丁を手がけた作家の中でも、士郎は火野葦平とともにもっとも多くの作品を担当した作家です。昭和10年の『人生劇場(青春篇)』以降、絶筆となった『遠き跫音(あしおと)』『一文士の告白』まで、約30作品の装丁を手がけています。中でも『人生劇場』は、各巻、出版社ごとに異なる装丁で幾度も出版されました。題字を含めて、中川独特の軽快な作風が存分に発揮されており、士郎作品に彩りを加えています。



中川一政書「尾崎士郎記念室」　昭和61年　中川93歳
町立図書館内の記念室に掲げられた扁額。当時の大渓教育長らが神奈川県真鶴町の書斎を訪問し、その場で揮毫いただいたもの。

『人生劇場』初版本 中川一政筆箱原画
左：青春篇（普及版）箱　　右：残侠篇（上）箱　単行本は竹村書房の発行

中川一政装丁の書籍　戦前の作品
『石田三成』昭和13年　『牛刀』昭和11年
『九十九谷』昭和14年　『後雁』昭和15年

中川一政装丁の『人生劇場』初版本　竹村書房発行
青春篇・愛欲篇・残侠篇

展示品リスト

No.	資　料　名	年　代	種 別	備　考
1	晩年の中川一政写真		写真	真鶴町立中川一政美術館提供
2	『瓢々録』原稿 中川一政「人生劇場のころ」	昭和39年	原稿	直筆ではないとみられる
3	中川一政から尾崎士郎あて書簡（絵入）	昭和9年10月17日	中川直筆手紙	愛欲篇挿絵執筆時に士郎にあてたもの
4	『人生劇場（青春篇）』普及版箱挿絵原画	昭和10年1月発行	中川直筆原画	単行本は竹村書房発行
5	『人生劇場 残侠篇』上 箱挿絵原画	昭和11年12月発行	中川直筆原画	単行本は竹村書房発行
6	『人生劇場 残侠篇』上 扉挿絵原画	昭和11年12月発行	中川直筆原画	単行本は竹村書房発行
7	『人生劇場 残侠篇』下 箱挿絵原画	昭和12年1月発行	中川直筆原画	単行本は竹村書房発行
8	都新聞連載『人生劇場（青春篇）』予告記事	昭和8年3月	新聞複写	
9	都新聞連載『人生劇場（青春篇）』第55回 原稿	昭和8年5月12日刊	士郎原稿複製	
10	都新聞連載『人生劇場（青春篇）』第39回 挿絵原画	昭和8年4月26日刊	中川直筆原画	大隈夫人銅像建立反対演説を行う瓢吉
11	都新聞連載『人生劇場（青春篇）』第65回 挿絵原画	昭和8年5月22日刊	中川直筆原画	流水亭の女中お袖の手をとる夏村大蔵
12	都新聞連載『人生劇場（青春篇）』第120回 挿絵原画	昭和8年7月16日刊	中川直筆原画	辰巳屋を処分し横須賀を発つおみねと吉良常
13	都新聞連載『人生劇場（愛欲篇）』題字絵原画	昭和9年	中川直筆原画	
14	都新聞『人生劇場（青春篇）』第55回掲載紙	昭和8年4月26日刊	新聞複写	
15	都新聞『人生劇場（青春篇）』第35・65回	昭和8年4月22日・5月22日刊	新聞複写	
16	新築地劇団公演『人生劇場』パンフレット	昭和10年10月25日～11月3日公演	演劇公演チラシ	装置：中川一政・本木勇
17	新築地劇団公演写真　第一幕辰巳屋　銀杏の木	昭和10年10～11月公演	公演写真	装置：中川一政・本木勇
18	新築地劇団公演写真　第一幕辰巳屋	昭和10年10～11月公演	公演写真	装置：中川一政・本木勇
19	『さしゑ人生劇場』中川一政　求龍堂発行	昭和10年10～11月公演	書籍	特装本限定70部 定価200，000円
20	中川一政書「尾崎士郎記念室」	昭和61年	中川 書	中川93歳
21	尾崎士郎『石田三成』 中川一政挿絵　複製（版彩画）	原画：昭和13年	中川原画（複製）	『中川一政挿絵版彩』より 昭和51年　青光社
22	都新聞連載『石田三成』 中川一政挿絵原画	昭和13年	中川直筆原画	加藤清正

尾崎士郎著書　中川一政装丁作品

No.	発行年月	作　品　名	出版社	備　考
1	S10.3	人生劇場　青春篇	竹村書房	初版
2	S10.7	人生劇場　青春篇（普及版）	竹村書房	
3	S10.9	人生劇場　愛欲篇	竹村書房	初版
4	S10.9	人生劇場　愛欲篇（普及版）	竹村書房	
5	S11.3	河鹿（短編集）	竹村書房	
6	S11.6	牛刀（随筆集）	竹村書房	
7	S11.12	人生劇場　残侠篇上	竹村書房	初版
8	S12.1	人生劇場　残侠篇下	竹村書房	初版
9	S12.9	人生劇場　青春篇・愛欲篇（決定版上巻）	新潮社	
10	S12.9	人生劇場　青春篇・愛欲篇	新潮社	決定版と別装丁、上製本と並製本あり（装丁同）
11	S12.10	人生劇場　残侠篇（決定版下巻）	新潮社	
12	S12.9	人生劇場　残侠篇	新潮社	決定版と別装丁、上製本と並製本あり（装丁同）
13	S13.11	八達嶺（短編集）	春陽堂	
14	S13.12	石田三成	中央公論社	初版
15	S14.12	九十九谷（短編集）	甲鳥書林	
16	S15.1	人生劇場　風雲篇	新潮社	初版　上製本と並製本あり（装丁同じ）
17	S15.12	後雁（短編集）	河出書房	
18	S16.11	人生読本	学芸社	
19	S23.2	人生劇場　愛欲篇上・下	高島屋出版部	
20	S23.3	人生劇場　残侠篇上・下	高島屋出版部	
21	S23.3	耳太郎（短編集）	世界社	
22	S26.5	曽呂利新左衛門	ジープ社	
23	S26.12	乱世三国志	湊書房	
24	S27・28	人生劇場　青春、愛欲、残侠、風雲、離愁、夢現・望郷篇	文芸春秋新社	各巻の装丁は共通
25	S28.9	青春伝書	池田書店	
26	S30.10	青春伝書（普及版）	池田書店	
27	S30.11	篝火	筑摩書房	
28	S32.9	厭世立志伝	中央公論社	
29	S39.4	遠き跫音	中央公論社	
30	S39.6	一文士の告白	新潮社	

※ 尾崎士郎全集（講談社）を除く